

3C-Action 2010

Challenge

Create

Change



私たちは、「挑む・創る・変える」の改革精神で
新たな価値を創造・提供し、人びとの豊かなくらしに貢献します

環境・安全報告書

2011

旭有機材グループ

旭有機材グループについて

グループ理念・行動規範

◆ 旭有機材グループ理念

旭有機材グループ理念

基本理念

私たち、旭有機材グループは、「挑む・創る・変える」の改革精神で新たな価値を創造・提供し、人びとの豊かなくらしに貢献します。

経営理念

人が主役です

人を大切にし、働きがいのある会社づくりをめざします。

ステークホルダーの信頼が命です

ステークホルダーに満足していただける商品・サービスと適切な情報を提供し、信頼を高め、高収益の会社をめざします。

技術がキラリと光ります

独自の技術で常に新しい分野に挑戦し、スピーディーにイノベティブな商品開発をめざします。

世界に挑戦します

国際社会に通用する商品開発力とマーケティング戦略により、グローバルな事業展開をめざします。

安全衛生・環境保全は使命です

安全衛生活動を積極的に推進するとともに、環境に優しい商品の開発と、環境に配慮した生産をめざします。

法と社会規範を守り、社会と共に歩みます

倫理性の高い企業活動と、良き企業市民をめざします。

◆ 行動規範

行 / 動 / 規 / 範

- ・顧客優先の徹底
- ・クイックレスポンスの励行
- ・情報の共有化
- ・失敗を恐れず変革に挑戦
- ・飽くなき好奇心と自己啓発、部下の育成
- ・国際感覚の涵養
- ・IT技術の先進的な活用
- ・リスクマネジメントの徹底
- ・知的財産と契約の重要性認識、機密保持
- ・企業倫理の遵守

INDEX

旭有機材グループ
環境・安全報告書 2011

旭有機材グループについて 1

グループ理念・行動規範
トップメッセージ
旭有機材工業プロフィール
旭有機材グループ拠点

TOPICS 6

地球環境対策に貢献
消防団協力事業場に認定

環境・安全について 7

旭有機材の環境・安全
関連する会議と大会

環境保全活動 12

産業廃棄物の削減（ゼロエミッション）
省エネルギー活動（エネルギー使用原単位の削減）
地球温暖化対策
環境負荷化学物質の削減（P R T R法）
グリーン購入

化学物質管理 14

化学物質セミナー「化審法と安衛法の概要」の開催
P C B 廃棄物の適正な管理
環境負荷化学物質の管理

労働安全衛生・健康 15

旭有機材グループの労働災害発生件数
安全講演会・衛生講演会
海外関連会社との交流
無事故・無災害を祈願して
健康確保と快適な職場づくり

保安防災活動 17

延岡地区防震対策
防火・防災訓練
環境・安全工場査察

品質管理・製品安全 18

品質重視の取組み

人財育成 19

技術協力
メンタルヘルス相談窓口担当者研修
産学の連携

地域貢献活動 20

地域社会との交流
植樹によるCO₂の吸収
被災地復興への支援

グループ会社 23

グループ会社の取組み

東日本大震災により被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。

一日も早い復興をお祈り申し上げます。

旭有機材グループは、総力を挙げて復興を支援してまいります。



旭有機材工業株式会社
代表取締役会長

佐次 洋一

◆ 新たな価値を創造・提供し、人びとの豊かなくらしに貢献

当社グループは、昨年4月に2013年3月期を最終年度とする新中期経営計画“*3C-Action 2010*”を策定し、3カ年計画の前半は「成長への基盤固め」としての経営基盤の強化、後半は「成長の第一ステップ」としてのグローバル展開の加速と戦略事業の育成・拡大に取り組むことを公表しました。2015年に向けて目指す企業像の実現のため、グループ全社で一丸となって取り組んでいます。

当社グループは、企業活動をとおして新たな価値を創造・提供し、皆さまの豊かな暮らしに貢献してまいります。

◆ 環境・安全は事業活動の基本

当社グループは、環境保全と安全確保は事業活動の基本ととらえ、「コンプライアンス」「リスクマネジメント」「お客様視点」「人財育成」の4つの基本方針の下で環境・安全活動を展開しています。

環境・安全と地域社会貢献は経営上の重要課題のひとつと位置づけ、皆さまから信頼される企業であり続けることができるよう、社員ともども企業としての責任を果たしていく所存です。

この報告書は、当社グループの環境・安全と地域社会貢献の取組みの内容をまとめたものです。当社グループの環境・安全活動がさらに充実したものとするために、皆さまのご意見やご要望、そしてご支援を賜りますようお願い申し上げます。

◆ 会社概要

商号 旭有機材工業株式会社
 本社所在地 延岡本社: 〒882-8688 宮崎県延岡市中の瀬町2丁目5955番地
 東京本社: 〒105-6120 東京都港区浜松町2丁目4番1号 世界貿易センタービル 20階
 設立 昭和20年3月12日
 資本金 50億10万円
 社員数 703人(連結1,043人)
 代表者 代表取締役会長 佐次洋一
 代表取締役社長執行役員 亀井啓次

◆ 事業概要

当社の管材システム事業部では、主力製品であるプラスチック製バルブ・パイプ・継手など配管材料製品と、これらを使用した配管の設計・施工を行うエンジニアリング事業、その他、汚泥削減・脱臭・脱塩等の環境分野向け装置の製造販売を行っております。

<h3>配管材料</h3>  <p>ASAHI AV</p> <p>プラスチック製ASAHI AV配管材料は、耐食、耐薬品性に優れ、また軽量であることから、配管設備の基礎を支える部材として幅広く活用され、各種工場、ビル、上下水道、農業灌漑施設、栽培漁業施設、アミューズメント施設などに欠かせないものとなっています。</p>	<h3>IT装置向け</h3>  <p>Dymatrix</p> <p>Dymatrix配管材料は、半導体・FRP製造用などのウェットプロセスを通る純水、ケミカル、スラリーなど、いずれの流体にも対応でき耐久性に優れ、流路をクリーンに保ち、かつコンパクト設計された製品です。ユニークな発想と技術力、それが、Dymatrixです。</p>
<p>管材システム事業部</p>	
<h3>プラントエンジニアリング</h3>  <p>当社製品を利用し、配管ラインの設計・施工を行っています。製鉄・化学プラントの薬液配管や水族館の設備などの実績が数多くあり、半導体工場や化学工場で高度な施工が要求される純水ラインの配管では、溶出不純物が極めて微量は管材や、様々な機能を持つバルブの配管施工、樹脂製加工品が採用されています。</p> <p>エンジニアリング部専用HP http://www.aoc-eng.jp</p>	<h3>環境ソリューション装置</h3>  <p>当社エンジニアリング技術と環境関連技術を応用した、余剰汚泥削減システム、排水前処理装置等を提供します。これらの製品は、いずれも化学合成物質に頼らず出来る限り自然の力を利用した、環境に優しいシステムです。</p>

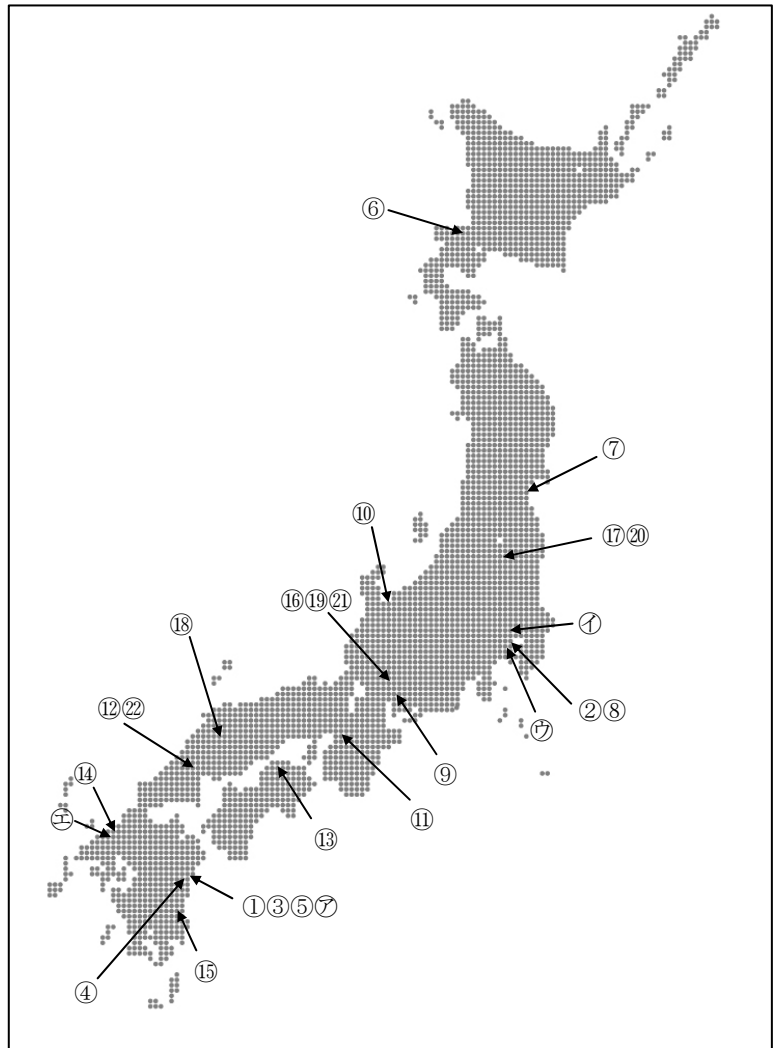
『古くて新しい樹脂』、それが樹脂事業部のキーマテリアルであるフェノール樹脂です。当社の樹脂事業部は、フェノール樹脂とともに、エンジンなどの自動車用鋳物や、半導体、液晶用レジスト分野、高断熱耐火フォーム用途など、時代の要求にマッチした製品で、世界に挑戦し続けています。

<h3>鋳物用</h3>  <p>当社の「AVライト®」シェルモールドレジン(鋳物用フェノール樹脂)及びRCS(レジンコーテッドサンド)は、国内トップシェアを保ちながら、日本国内だけでなくとどまらず海外の日系企業を中心に積極的な技術支援と、現地生産・販売を行っています。その他にも有機自硬化性レジン(酸・アルカリ硬化)、コールドボックスレジン等の様々なプロセスにも対応しています。</p>	<h3>高性能材料</h3>  <p>各種用途向けに、フェノール樹脂の特性を活かし、お客様の御要望に沿った製品を提供いたします。一般的に工業用としては、建材、耐火物・カーボン、砥石、フェルト、摩擦財等に使用されています。電子材料用としては、主にフォトレジスト用感光剤母核(バラスト材)やフォトレジスト用ベース樹脂とした使用されています。成形材料としては、その優れた特徴(耐熱性、電気特性、寸法安定性など)により、電気・電子・自動車・機械等、幅広い分野で使用され、省力化・軽量化などあらゆるニーズにお答えしています。</p>
<p>樹脂事業部</p>	
<h3>発泡材料</h3>  <p>当社独自の「新フェノールウレタン」技術は、ノンフロン現場発泡システムにおいて、従来のフロン発泡並みの高断熱性能と長期断熱安定性、低透湿率を実現しました。これは、現場発泡断熱材のノンフロン化を推進し、地球温暖化対策に貢献することに繋がります。加えて、これまでノンフロン化のほとんど進まなかった冷凍倉庫、断熱機器、注入不燃・減熱パネル等の産業分野のノンフロン化を大きく前進させる可能性も持っています。</p> <p>ゼロフロン専用HP http://zerofpn.jp</p>	

旭有機材グループ拠点

◆ 国内拠点

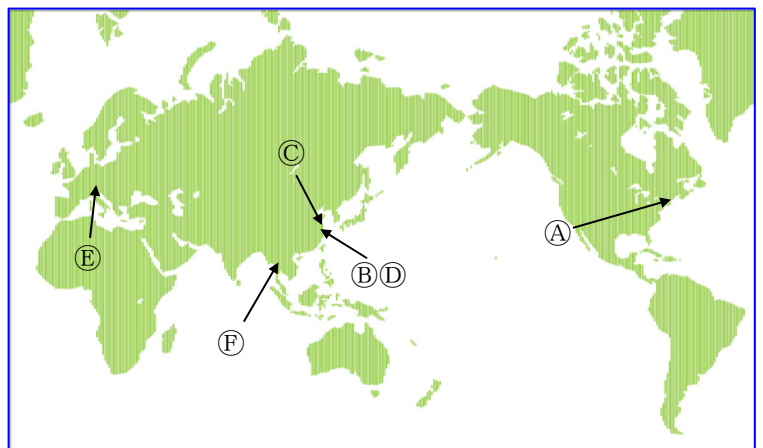
本 社	1	延岡本社	
	2	東京本社	
管 材 シ ス テ ム 事 業 部	3	管材製造所	
	4	天下テクノセンター	
	5	延岡研究所	
	6	札幌営業所	
	7	仙台営業所	
	8	東京営業所	
	9	名古屋営業所	
	10	北陸営業所	
	11	大阪営業所	
	12	広島営業所	
	13	高松営業所	
	14	福岡営業所	
	15	南九州営業所	
樹 脂 事 業 部	16	愛知工場	
	17	栃木工場	
	18	広島工場	
	19	愛知研究所	
	素 形 材 営 業 部	20	東日本グループ
		21	中日本グループ
		22	西日本グループ



国内グループ会社			
ア	エーオーシーアSEMBL(株)	ウ	旭有機販売(株)
イ	エーオーシーテクノ(株)	エ	旭有機販売西日本(株)

◆ 海外拠点

A	アサヒ/アメリカ, INC
B	旭有機材商貿(上海)有限公司
C	旭有機材樹脂(南通)有限公司
D	旭有機材閥門設備(上海)有限公司
E	欧州事務所
F	タイ事務所



TOPICS

地球温暖化対策に貢献

◆ 『ノンフロン現場発泡システム』がダブル受賞

樹脂事業部の発泡材料事業推進部で進めています「高断熱ノンフロン現場発泡システムの開発」が、このたび『第13回オゾン層保護・地球温暖化防止大賞』において審査委員会特別賞を受賞しました。



また、第12回グリーン購入大賞では、「現場発泡ウレタンフォームのノンフロン化は温暖化防止に大きな効果があり、重要な取組みであると同時に、今後の取組みが期待されている建設分野におけるグリーン購入の拡大に貢献することが期待される」との評価をいただき、審査員特別賞を受賞しました。

消防団協力事業所に認定

◆ 延岡地区が総務省消防庁より認定

2011年3月29日に、旭有機材の延岡地区は、総務省消防庁より消防団協力事業所として認定され、表示証を授与されました。2009年8月には、延岡市及び延岡市消防本部より既に同認定を受けており、今回はその活動と会社としての支援が国にも認められました。

火災、災害や人命救助などで、第一線で活躍する消防団員に敬意を払い、社会貢献活動と位置づけ、旭有機材の幅広い側面からの支援体制が認められたものです。



伝達式風景：延岡市消防本部消防長より受証しました。



延岡本社入り口に表示

環境・安全について

旭有機材の環境・安全

「環境・安全」とは環境保全・労働安全衛生・健康保持増進・保安防災・製品安全などの総称で、製品の開発、製造、販売、および廃棄物の処理に至るあらゆる活動において、環境や人の安全にかかわる問題の発生を未然に防止するとともに、問題が発生した場合に適切に対応することを目的とした活動を行っています。

◆ 「環境・安全」に関する経営方針

旭有機材グループでは「環境・安全に関する経営方針」を制定しています。

環境・安全に関する経営方針

理念

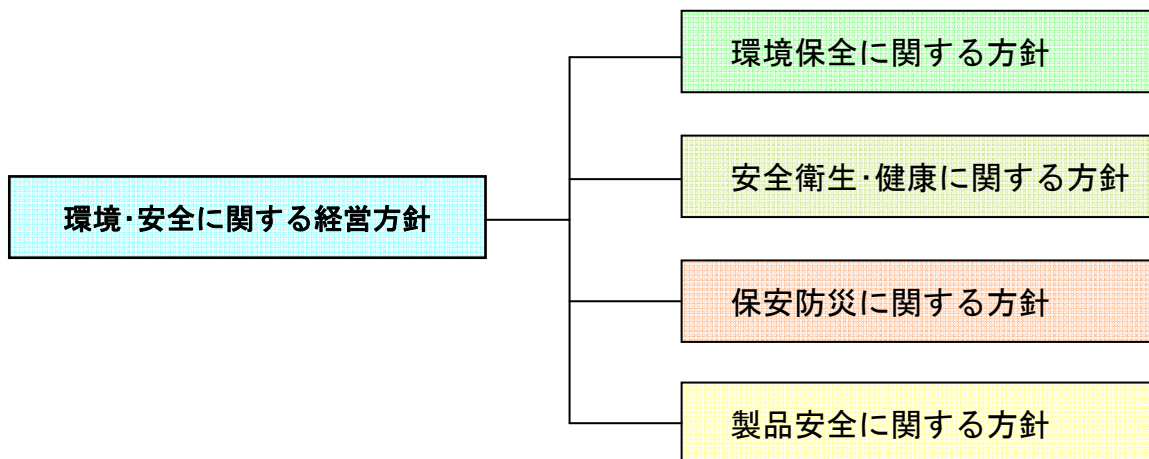
当社は環境保全・労働安全衛生・保安防災および製品安全を、経営の最重要課題のひとつとして捉え、常に人や環境に優しい製品を開発、生産ならびに提供することを使命と認識し、事業活動を通して地球環境の保全と安全・衛生の確保に努めます。

方針

環境保全と安全確保は事業活動の基本である。

1. 環境保全活動の推進
製品に関わるすべての事業活動を通して環境保全に貢献します。
2. 安全衛生活動の推進
安全教育や設備安全化および安全衛生管理を通して、労働災害の防止を図ります。
3. 健康の保持と増進
快適な職場環境の実現に努め、健康の保持と増進を図ります。
4. 保安防災活動の推進
安定操業の維持と保安防災の向上に努め、従業員と地域社会の安全を確保します。
5. 製品安全の確保
製品の開発から廃棄に至るすべての段階において、技術向上と製品管理を徹底し、製品の安全性を確保します。

この「環境・安全に関する経営方針」を実践するために、構成要素ごとに方針を制定し、実現をめざして日常的に環境・安全活動を推進しています。



◆ 「環境・安全」に関する重点課題

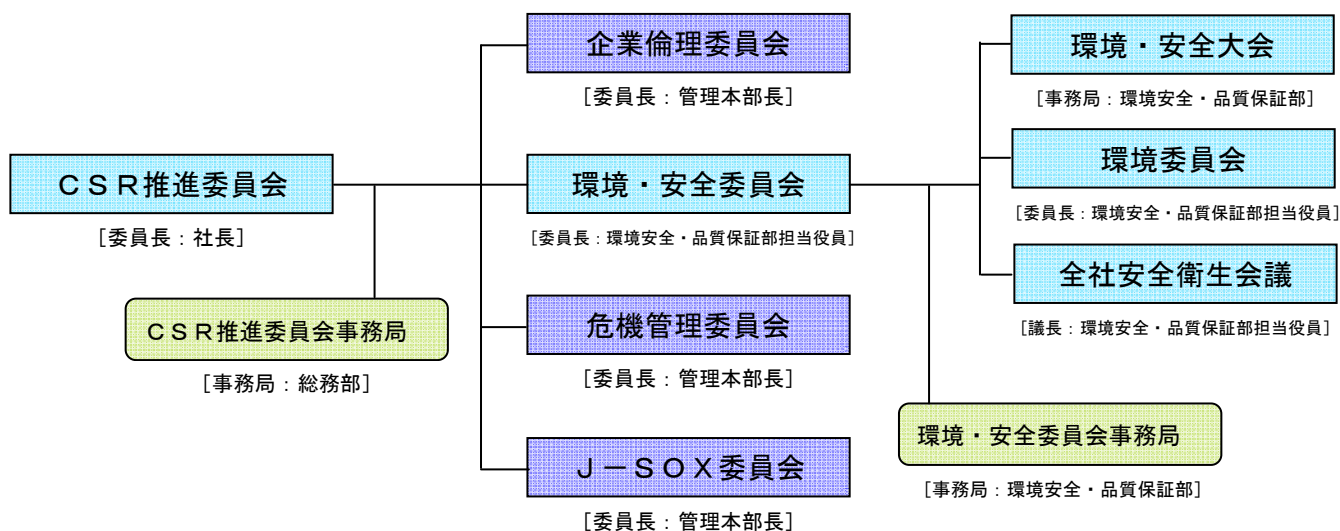
旭有機材グループの環境・安全活動に関して、製品の開発、製造、物流、販売および廃棄物の処理にいたるあらゆる事業活動にともなう、環境や人の安全および健康に影響を与える問題の発生を未然に防止するとともに、問題が発生した場合に適切に対応をするために、環境・安全管理に関する問題や課題の解決に取り組んでいます。

[環境・安全管理に関する重点課題]

	2010年度～2012年度の重点課題
環境保全	①ゼロエミッションに向けた取組み ②地球温暖化対策活動（エネルギー原単位とエネルギー起源CO ₂ 排出量の削減） ③化学物質による環境負荷の低減 ④地域貢献活動の推進
安全衛生・健康	①各地区・工場のトップのリーダーシップ ②管理監督者の職場活動への積極的関与 ③安全衛生教育の充実化 ④ゼロ災害活動（KY活動、HH・K活動、3S活動、改善提案活動等）の推進
保安防災	①安定操業の維持のための保安防災管理のレベルの向上 ②主要拠点での事業継続計画（BCP）の構築 ③緊急時のための効果的な実地訓練の実施
化学物質	①生産活動における有害化学物質の適正な管理 ②化学物質による環境負荷の低減 ③製品等に含有する有害化学物質の削減または全廃

◆ 「環境・安全」の社内推進体制

旭有機材グループでは、「CSR推進委員会」を設置し、全社のCSR活動を展開しています。また、CSR推進委員会の下部活動委員会のひとつに「環境・安全委員会」を設置しています。この「環境・安全委員会」のメンバーは、環境・安全担当役員を委員長とし、各事業部門の代表者で構成され、委員長の指揮のもと運営されています。この委員会を通してグループ全社の環境・安全活動の計画の決定や事業部門への横展開を推進しています。



◆ 環境・安全活動の数値目標と進捗状況

環境・安全活動のなかで特に重点的に取り組んでいる数値目標とその進捗状況を記します。

1. ゼロエミッションに向けた活動

生産活動にともなう産業廃棄物を削減するとともに、発生した廃棄物は有効利用を促進して、単純（埋立）処分される廃棄数量を削減します。

2. 地球温暖化対策に向けた活動

国や地方公共団体の地球温暖化対策に協力するために、事業活動にともなうエネルギー単位の削減と二酸化炭素排出量の抑制に取り組めます。

3. 環境負荷化学物質の移動量と排出量の削減

P R T R法の第一種指定化学物質と特定第一種指定化学物質の移動量と排出量の削減に取り組めます。

4. ゼロ災害の実現（労働災害の撲滅）に向けた活動の目標

安全の3原則（人・設備・管理）の改善活動等を推進して、ゼロ災害を実現します。

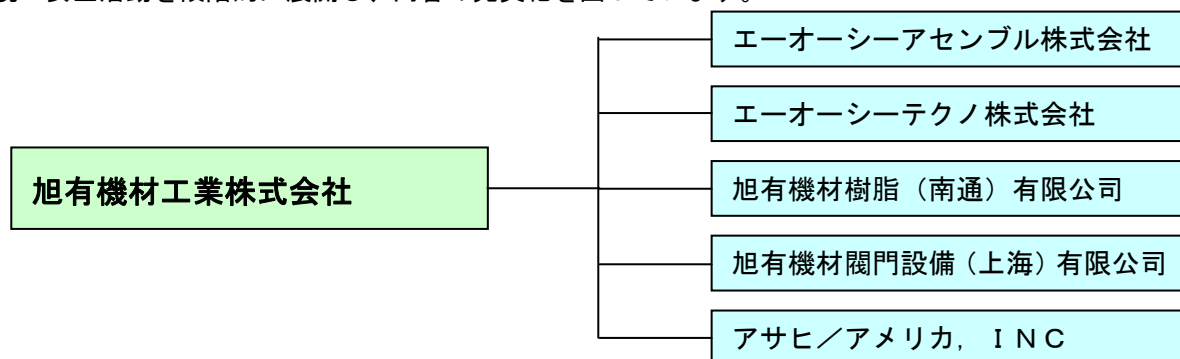
2010年度の実績と2012年度までの目標値は下表のとおりです。

[環境保全と安全衛生の重点課題の数値目標]

	基準年度 実績	2010年度	目 標 値	
			2011年度	2012年度
産業廃棄物の単純処分数量 の削減（トン） [増減率%]	2007年度 1,370 [基準]	688 [-50%]	700以下 [-49%以上]	700以下 [-49%以上]
エネルギー起源二酸化炭素 排出量の削減（t-CO ₂ ） [増減率%]	2006年度 45,600 [基準]	37,000 [-18%]	36,000以下 [-21%以上]	36,000以下 [-21%以上]
環境負荷化学物質の移動量 の削減 [P R T R法] (kg) [削減率%]	2007年度 17,600 [基準]	5,800 [-67%]	6,000以下 [-66%以上]	6,400以下 [-64%以上]
労働災害の災害度数率 [発生件数]	2008年度 2.49 [5件]	1.81 [4件]	0.50以下 [1件以下]	0 [0件]
労働災害の休業度数率 [発生件数]	2008年度 0 [0件]	0 [0件]	0 [0件]	0 [0件]

◆ グループ会社との連携

旭有機材では、グループ全社で一体的に「環境・安全」を推進するために、連結グループ会社とも連携して環境・安全活動を段階的に展開し、内容の充実化を図っています。



◆ 環境・安全活動の目標と達成状況

旭有機材では、環境・安全活動の目標を設定し、それを計画的に実行することで継続的な改善活動に取り組んでいます。

環境・安全活動の2010年度目標と達成状況および2011年度の目標

[●：達成 ▲：さらに取組みが必要]

項目	2010年度の目標	2010年度の実施状況	評価	2011年度の目標
全般	環境・安全査察の機能の強化	「工場内の適正な表示」と「化学物質」を重要テーマとして工場査察を実施	●	「火災防災管理」と「適用法令の遵守」を重点テーマとして工場の査察と監査を計画
	外部コミュニケーションの推進	地域貢献・社会貢献活動の推進をとおして地域との協調促進	●	地域貢献・社会貢献活動の推進をとおして地域との協調促進
環境保全	産業廃棄物の削減と有効利用 ○廃棄物：16,600トン以下 ○単純処分：355トン以下	生産量のダウン等により廃棄物は減少 ○廃棄物：15,505トン ○単純処分：688トン	●	ゼロエミッションの一環として廃棄物の削減の推進（4Rの実践）
	電気・熱・貨物輸送エネルギー原単位の削減： 2006年度対比で4%以上の削減 [年平均1%]	生産設備の稼働率のダウン等により原単位は前年度対比で悪化	▲	2006年度対比で5%以上の削減
	電気・熱・貨物輸送エネルギー起源CO ₂ の削減： 2006年度対比で4%以上の削減 [年平均1%]	排出量：37,000トン-CO ₂ 生産量のダウンによりCO ₂ 排出量は前年度対比で大幅に減少	●	2006年度対比で5%以上の削減
	環境負荷化学物質の移動量と排出量の削減（PRTTR法） ○第一種：6,250kg以下	環境負荷化学物質の移動量と排出量は、5,920kg	●	環境負荷化学物質の移動量と排出量の削減（PRTTR法） ○第一種：6,000kg以下
	ダイオキシン類の移動量と排出量の削減（PRTTR法） ○特定第一種：10mg-TEQ以下	ダイオキシン類の移動量と排出量は、7mg-TEQ	●	ダイオキシン類の移動量と排出量の削減（PRTTR法） ○特定第一種：10mg-TEQ以下
安全衛生	労働災害：不労災害2件以下 災害度数率：1.00以下	グループ全社で4件（休業2件）発生し災害度数率は1.81	▲	休業災害ゼロ、不労災害1件以下 災害度数率：0.50以下
	リスクの低減：新規も含め全社でリスクレベルⅢ（優先的改善必要）を4件以下	6件のレベルⅢはすべてレベルⅡ以下（段階的改善必要）に改善済み	●	リスクの低減：新規も含め全社でリスクレベルⅢ（優先的改善必要）の解消を継続
	安全衛生教育の充実化（教育資料の整備や社内安全衛生講演会の開催）	3件の社内教育資料を整備するとともに社外専門家による安全講演会と衛生講演会を開催	●	メンタルヘルスケアの社内基盤整備と健康保持増進のためのセルフケア活動の支援
防災	産業事故災害ゼロの継続	産業事故災害ゼロ	●	産業事故災害ゼロの継続
	主要拠点工場での事業継続計画（BCP）構築の推進	延岡地区での構築活動の推進	●	主要拠点でのBCP構築を推進

関連する会議と大会

◆ 環境・安全委員会および全社安全衛生会議（2010年8月3日 開催）

環境・安全担当役員を委員長として年2回の頻度で開催しています。環境・安全委員会では、環境・安全に関する諸課題等について、全社安全衛生会議では、安全衛生や健康に関する諸課題等について協議し、決議事項はグループ全社に横展開しています。

今年は環境・安全の中期計画に関すること、および化学物質の管理に関する基本方針などについて協議し、具体的な施策を決定しました。

また、環境・安全表彰の受賞部場の審査も行いました。



環境・安全委員会

◆ 環境委員会（2011年1月17日 開催）

環境・安全担当役員を委員長として年1回の頻度で開催し、環境保全活動全般に関する諸課題等について協議し、決議事項に基づいて、環境保全活動をグループ全社に横展開しています。

今年は委員長から環境保全の3か年計画の見直しと環境保全活動のより一層の推進について指示がありました。



環境委員会

◆ 第7回 全国環境・安全大会（2011年3月10日 開催）

全国環境・安全大会は、「環境・安全に関する経営方針」を広く実践するために、すべての従業員が環境・安全に対する意識を高め、自主的な改善活動を推進することを目的として毎年開催しています。2010年度で7回目となる今大会は、延岡本社事務所からTV会議システムにより全国5拠点で中継されました。

今大会では「リスク対応」「コンプライアンス」「お客様視点の環境・安全活動」の3点が発信されました。

また、例年どおり外部講師による特別講演の開催や、環境・安全活動に顕著な成績を収めた部場を表彰するなど、全社の安全衛生活動の啓発を図っています。



講演：化学物質のリスクアセスメント
講師：安全衛生コンサルタント

矢崎 武 様



環境・安全活動の事例発表



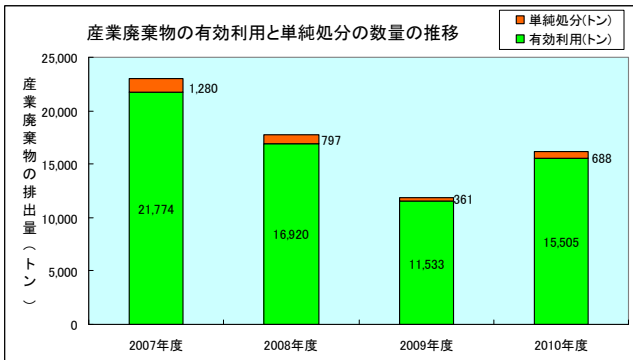
環境安全の特別賞の表彰

環境保全活動

産業廃棄物の削減（ゼロエミッション）

◆ 産業廃棄物の削減と有効利用

産業廃棄物の排出量の削減と発生した産業廃棄物は有効利用に努め、単純（埋立）処分される廃棄物の削減を推進しています。



2007年度の実績を基準として2010年度は、

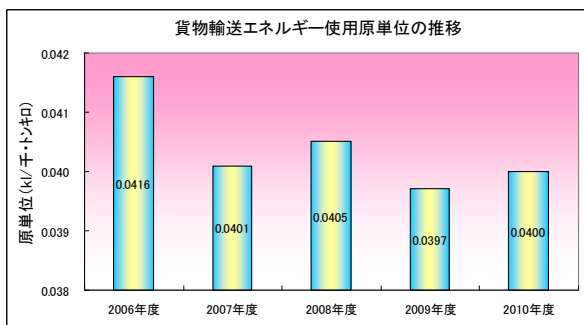
- ◎ 産業廃棄物の排出量：30%の削減
- ◎ 単純処分される廃棄物の数量：46%の削減

排出される産業廃棄物の数量に占める単純処分される産業廃棄物の数量の割合は、2010年度は4.3%となりました。

省エネルギー活動（エネルギー使用原単位の削減）

◆ 貨物輸送エネルギー使用原単位の削減

当社は省エネルギー法の「特定荷主」に指定されており、省エネの一環として貨物輸送エネルギーに関わる原単位を中長期的に年平均1%以上削減することに取組んでいます。

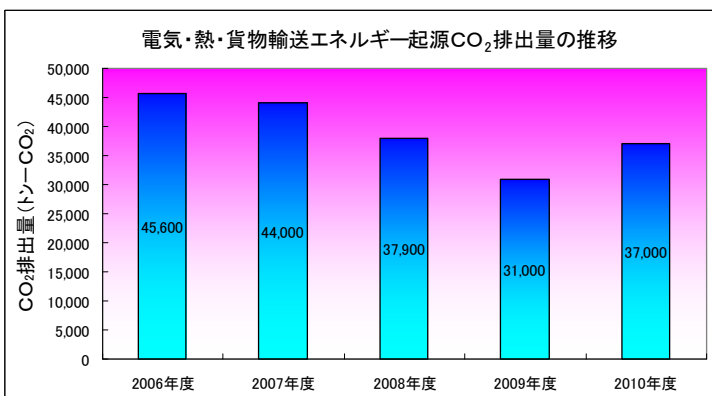


2010年度の原単位は0.0400 (kl/千・トンキロ) となり、これは2007年度の実績を基準とすると、3.85%の削減（年平均0.96%の削減）になりました。

地球温暖化対策

◆ 電気・熱・貨物輸送エネルギー起源CO₂排出量の削減

全社の電気・熱・貨物輸送エネルギー起源CO₂排出量は、次のグラフのとおりです。

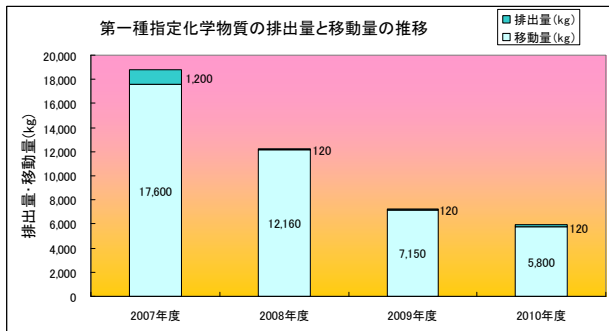


2010年度のCO₂排出量は37,000トンとなり、リーマンショックの影響により生産量が減った前年度よりは増加したものの、基準である2006年度実績と比べ18.9%の減少となりました。

環境負荷化学物質の削減（P R T R法※①）

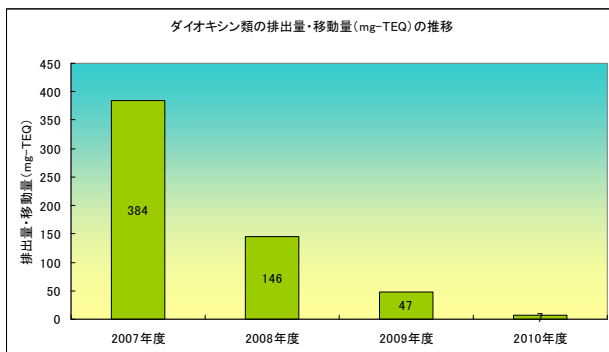
◆ 指定化学物質の移動量・排出量の削減

2010年度は排出量120kg、移動量5,800kgとなりました。



P R T R法の改正により、対象となる化学物質が増えたものの、代替品の使用や使用削減により基準である2007年度実績に比べ69%削減しました。各工場での対象となる指定化学物質は14ページに記載しています。

※①P R T R法：特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律（化管法）



また、特定第一種指定化学物質である「ダイオキシン」の2010年度の排出量・移動量は7mg-TEQとなりました。

焙焼炉の温度設定や、焙焼方法の検討などにより、ダイオキシンの発生を抑えることが出来ました。

グリーン購入

◆ 自動販売機

管材製造所と愛知工場では、場内の自動販売機の見直しを行いました。

管材製造所に設置した自動販売機はヒートポンプ方式とソーラーパネルにより消費電力を抑えています。愛知工場の自動販売機は美観を良くするために化粧箱に収めています。



管材製造所



愛知工場

◆ 電気自動車

延岡本社では、2009年12月から電気自動車を導入し、車両からの二酸化炭素排出の削減、省エネルギーに貢献しています。

2010年度は、ガソリン車に比べ375kgの二酸化炭素の排出を抑えることが出来ました。



化学物質管理

化学物質セミナー「化審法と安衛法の概要」の開催

◆ 適切に管理するために

2010年6月23日、化学物質管理の視点で「化審法と安衛法の概要」をテーマに講演会を開催しました。講演では、成形品に含まれる化学物質に関する法規制としてRoHS指令、POPs条約（ストックホルム条約）、REACH規則についても教育を行いました。現在、お客様からの製品含有化学物質に関するお問い合わせには個別対応をしております。今後、更に化学物質管理を推進し、適切な管理とお客様への迅速な回答に努めてまいります。



PCB^{※①}廃棄物の適正な管理

◆ 適切に管理するために

旭有機材では、PCBを使用したコンデンサー、安定器など計75個をステンレス容器などに入れて倉庫等で保管し、記録管理しています。

法的期限である2016年7月までに、これらのPCB廃棄物を日本環境安全事業株式会社の処理施設にて適切に処理する計画です。

※①PCB：“Polychlorinated Biphenyls”の略で、難分解性かつ、人の健康および生活環境に被害を及ぼすおそれがあるため、日本では、製造・使用が実質的に禁止されています。



管材製造所での保管状態

環境負荷化学物質の管理

◆ PRT法による化学物質の適正管理

旭有機材は、PRT法で指定されている以下の化学物質の排出量・移動量を管理するとともに、それらの計画的な削減に取り組んでいます。

製造所・工場	PRT法により管理している物質
管材製造所	有機スズ化合物・鉛及びその化合物・アンチモン及びその化合物・ヘキサメチレンテトラミン・フェノール
北方工場 ^{※②}	有機スズ化合物・鉛及びその化合物
愛知工場	亜鉛の水溶性化合物・ビスフェノールA・クレゾール・ヘキサメチレンテトラミン・フェノール・1,3,5-トリメチルベンゼン・ホルムアルデヒド・りん酸トリ-n-ブチル・ダイオキシン類・トリエチルアミン・メチレンビス(4,1-フェニレン) = ジイソシアネート
栃木工場	ダイオキシン類・ヘキサメチレンテトラミン・鉛及びその化合物
広島工場	ダイオキシン類・ヘキサメチレンテトラミン

※②北方工場：2011年3月31日に操業終了。

労働安全衛生・健康

旭有機材グループの労働災害発生件数

◆ ゼロ災達成を目指します！

旭有機材グループの労働災害発生件数は減少傾向にありますが、ゼロ災は達成しておりません。しかし、旭有機材単独で過去3年以上休業災害を発生させていません。

労働災害撲滅に向けて、旭有機材グループでは、管理監督者の職場安全衛生活動への積極的関与を通じて、グループ従業員全員で、ゼロ災活動の推進を図っております。

◇安全衛生の集計期間（1年）＝1月1日～12月31日

		実績値			目標値	
		2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
休業災害発生件数	単独	0	0	0	0	0
	グループ会社	0	2	0	0	0
	連結合計	0	2	0	0	0
不休災害件数	単独	4	0	3	0	0
	グループ会社	1	2	1	1以下	0
	連結合計	5	2	4	1以下	0
休業災害度数率	単独	0	0	0	0	0
	連結合計	0	0.90	0	0	0
全災害度数率	単独	2.48	0	1.97	0	0
	連結合計	2.49	1.91	1.81	0.50以下	0

安全講演会・衛生講演会

◆ ヒューマンエラー対策で労働災害防止！

平成22年度全国安全週間は、スローガン『みんなで進めようリスクアセスメント めざそう職場の安全・安心』を掲げ、7月1日から7月7日まで実施されました。

旭有機材におきましても、危険性又は有害性の再調査やその結果に基づくリスク低減措置の実施をはじめ、安全管理活動を推進しています。



安全意識の高揚と労働災害防止を図ることを目的として、安全衛生の専門家による安全講演会を開催し、多くの従業員が聴講し、職場の安全意識の啓蒙を図ることができました。

2010年度の講演テーマは、「ヒューマンエラー対策と労働災害の防止」と題し、TV会議システムにより全国6拠点で中継しました。

◆ 全国の企業で、メンタル不調者が増加傾向！

平成22年度全国衛生週間は、スローガン『心の健康維持・増進 全員参加でメンタルヘルス』で、10月1日から10月7日まで実施されました。

旭有機材におきましても、過重労働による健康障害の撲滅やメンタルヘルス不調の未然防止が重要な課題となっており、職場のトップ、管理監督者、衛生管理者等のスタッフ、従業員がそれぞれの立場で心の健康の維持・増進に取り組んでいます。



本週間では「企業のメンタルヘルス対策」をテーマに、社内で専門家による衛生講演会を開催しました。

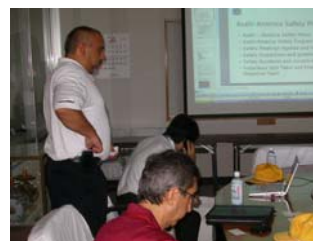
メンタルヘルスに対する認識を新たにするとともに、今後の取り組みの重要性を認識しました。

安全講演会と同様に、TV会議システムにより全国6拠点で中継しました。

海外関連会社との交流

◆ アサヒアメリカ社

6月と10月に関連会社のアサヒアメリカ社と安全衛生に関する交流を実施しました。旭有機材からは延岡地区における取り組みを紹介し、アサヒアメリカ社からは現在の自社の取り組み状況を紹介していただきました。今後も交流を深めながらお互いの良い点を取り入れ、労働災害の撲滅に取り組んでいくことを確認しました。



無事故・無災害を祈願して

◆ 労働事故・災害ゼロを祈願して安全祈願祭に参加！

旭有機材では、毎年各製造拠点で労働事故・災害ゼロを祈願して、労働安全祈願祭に参加または、実施をしております。

事故・災害ゼロは、企業や従業員にとって、切なる願いです。年頭に当たり、まずは意識を新たにすることを目的に行われるもので、意義あるものとなっております。



延岡地区での安全祈願祭

健康確保と快適な職場づくり

◆ 『走ろう会・歩こう会』活動

『走ろう会・歩こう会』は、毎月第一水曜日を定例活動日として、周辺の堤防やグラウンドで練習を行っています。部員拡大も呼びかけ、現在では45名が在籍しています。

日ごろの疲労やストレスも、楽しく体を動かし汗を流すことでリフレッシュでき、部員とのコミュニケーションも図られ、快適な職場環境作りにもつながっています。

また、青島太平洋マラソンなど地域で行なわれるマラソン大会にも積極的に参加しています。

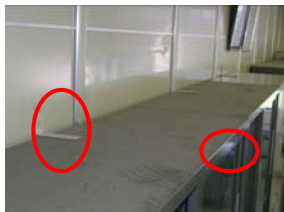
保安防災活動

延岡地区防震対策

◆ 延岡地区の屋内装置、棚、ロッカー類の転倒防止対策を完了

保安防災活動の一環として、2010年8月、延岡地区（管材製造所、延岡研究所、延岡本社事務所）の屋内設置の書類棚、ロッカー類の防震対策（転倒防止）を完了しました。

〈固定事例1 直接壁に固定〉



〈固定事例2 大型書棚同士の結束による固定〉



防火・防災訓練

◆ 突然の災害に備えて

旭有機材グループでも、全国各拠点で毎年、防火・防災訓練を実施しております。

地震、火災、津波という緊急災害を想定し、迅速かつ適切な避難や行動が取れることを目的としています。今年も多く旭有機材グループ従業員が参加しました。〈訓練の様相〉延岡地区（2011年3月23日実施）



地震発生時の様子



救護活動の様子



消火器訓練



放水訓練

環境・安全工場査察

◆ 経営者による全国製造工場の環境・安全査察を実施

2010年度も環境・安全管理の一環として、各工場の活動状況を確認するために、経営者による査察を実施しました。

2010年度は、メインテーマを「職場の表示と日常的な3S」及び「化学物質管理」としました。



環境・安全社長査察（愛知工場）



環境・安全社長査察（管材製造所）

品質管理・製品安全

品質重視の取組み

旭有機材では、製品やサービスを提供する企業として品質管理に努め、お客様の信頼と満足が得られる、より優れた、より安全な製品の創出を通じて、人びとの幸福と社会の発展に寄与することをめざしています。

◆ 品質マネジメントシステム

旭有機材では、管材システム事業部と樹脂事業部の国内事業所では、それぞれISO9001をベースとした品質マネジメントシステムを構築し認証を取得しています。事業部ごとに事業部長が経営者として品質方針を提示し、品質管理責任者を任命して、お客様満足の向上をめざして当該製品やサービスに適した品質マネジメントシステムの維持管理に努めています。

また、旭有機材グループは、全社的な製品安全の基本方針として下記の4つの重点事項を定め、品質マネジメントシステムの枠組みのなかで、これらの確実な実践を推進しています。

- ① お客様の立場で製品を開発すること
- ② 技術を練磨し品質管理を徹底して、ものづくりをすること
- ③ 製品を正しく使っていただく営業を実践すること
- ④ 製品が効用を終え、廃棄されるまでのすべての段階における環境と安全に与える影響を配慮すること

◆ 日常的な品質管理活動

ここでは、管材システム事業部管材製造所の日常的な取組みの一部をご紹介します。

管材製造所では生産現場重視の一環として、管理監督者による作業観察会を定期的に行い、問題点の早期発見と是正につなげています。また、品質改善委員会を毎月開催しており、ここでは設計開発部門、製造部門、品質管理部門等の代表者が出席し、品質に関わる課題の進捗状況の相互確認や品質情報の共有化など、組織的な品質改善の機会のひとつとして位置づけ、関係部門が連携して品質の向上に取り組んでいます。



生産現場での作業観察会



毎月開催の品質改善委員会

◆ 事業部間交流品質監査の実施

従来は全社の品質保証部門が2つの事業部の監査を実施していましたが、2010年度の全社品質監査は、事業部同士の相互交流スタイルで実施しました。これによりお互いの良い点を取り入れることができ、共通の問題点も共有して全社的なルール改善等につながりました。今後も事業部間の情報交換を行い、継続的改善を推進します。



人財育成

技術協力

◆ 宮崎県工業会主催「ものづくり革新大学」研修会（延岡地区）

宮崎県内の多くの企業が参加して、宮崎県工業会が主催して「ものづくり革新大学」が発足し、今まで多数の研修会が行われてきました。

2010年8月26日は旭有機材にて現場改善コースが開催され、県内企業14社21名がグループを編成、旭有機材製造現場の問題点や改善を討議しました。

旭有機材管材製造所長の挨拶と会社概要の説明に始まり、旭有機材の改善事例発表を参考に、グループ別で現場改善演習を実施しました。最後に、グループ発表を行い、個々の改善内容について全員で共有することが出来ました。



◆ タイP I M社研修（広島地区）

当社が技術協力しているタイのP I M社（PINE INDUSTRIAL MATERIALS Co., Ltd）の社員が来日し、生産性向上と新しい設備技術修得を目的に、当社広島工場で3日間の研修を受けました。



メンタルヘルス相談窓口担当者研修

◆ こころの健康増進！

2010年11月29～30日、講師に人財科学研究所代表工藤智徳氏を迎えて「メンタルヘルス相談窓口担当者研修」を実施しました。工藤講師の指導のもと、感情面を聴く傾聴方法などを中心に座学とグループごとの実践的な体験学習を実施しました。受講者は職場において“こころのサポーター”として活動するために必要な基本的スキルを習得できました。



産学の連携

◆ インターンシップ受入

延岡地区では、毎年、大学や高専の学生を対象としたインターンシップの受け入れを行っています。

2010年8月には、愛知工場でも初となるインターンシップを受け入れました。



地域貢献活動

旭有機材では、事業特性や社会的課題を意識し、経営理念の「社会と共に歩みます」を実践するため、地域貢献活動を行っています。

地域社会との交流

◆ 中学生・高校生を対象とした工場見学の実施

延岡地区では、地元の中学生・高校生を対象に工場見学・職場作業体験を実施しています。2010年度は7校（109名）を受け入れました。



地元高校生による工場見学

◆ 交通事故撲滅のための交差点立ち番

延岡地区では、年2回の交通安全週間（春と秋の交通安全週間）と年末年始交通事故防止月間に、愛知地区では、毎月ゼロが付き日（10日、20日、30日）に、交通事故防止のための立ち番を実施しています。



延岡地区



愛知地区

◆ 九州の循環型高速交通ネットワークの早期整備を！

旭有機材延岡本社・工場は東九州に位置していますが、東九州自動車道・九州中央自動車道の整備は大きく遅れており、地域社会や産業・経済の発展に不可欠な高速交通網の早期実現が望まれています。

そのような中、両自動車道が真に必要な道路であるという地域のアピールに賛同し、建設促進総決起大会に参加しました。



建設促進総決起大会の様様

◆ A E D（自動体外式除細動器）の設置について

旭有機材では、全社で6箇所にA E Dを設置しています。

「A E D設置施設」であることを表示する看板の設置や、行政機関のホームページ等での広報により、地域住民の方がたも緊急時にはご利用いただけるようになっています。



管材製造所正門に「A E D設置施設」の表示

◆ 旭有機材では献血事業に多くの従業員が参加

旭有機材では全国各拠点で日本赤十字社の血液事業の大切さを理解し、以前より定期的に協力しています。

医療機関からの需要に安定的に血液を届け、多くの人々の命を救う一助になればと考えております。

血液製剤は有効期限があることから、善意の献血は一時期に偏ることのない継続的な協力が必要です。

献血活動を通して出来る地域貢献として、毎回多くの社員が積極的に協力しています。



管材製造所での献血の様子

※移動献血車による献血を実施しており、2010年度は延べ120名の協力がありました。

◆ 延岡のぼりざるフェスタ（延岡地区）

旭有機材は、延岡市の恒例行事である『のぼりざるフェスタ』に毎年参加しています。

出店内容としては、当社の製品展示や製品説明と、子供を対象としたパターゴルフなどのレクリエーションスペースを設け、楽しんでいただきました。

開催期間中雨模様ではありましたが、たくさんのお客様に立ち寄っていただき、大変盛り上がった活動となりました。



延岡のぼりざるフェスタ

◆ スポーツ大会の開催（愛知地区）

愛知地区では、毎年、「旭有機材杯」としてレクバレー※①大会とソフトボール大会を開催しています。

レクバレー大会は今回で27回目、ソフトボール大会は33回目となり、毎年、近隣地区（扶桑町、江南市）からも多数エントリーいただいています。

※①レクバレー：9人制で、アタック禁止・3回までの返球（但し、1回での返球は反則）のため、幅広い年齢層で楽しめるバレーボール競技（レクレーションバレー）



第27回 旭有機材杯レクバレー大会

植樹によるCO₂の吸収

旭有機材では、宮崎県が取り組んでいます「企業の森林づくり」に参加し、2008年4月から延岡市北方町にて「ゆうきの森」の植樹活動を行っています。

◆ 「ゆうきの森」植樹祭

「第4回『ゆうきの森』植樹祭」を4月2日に開催しました。年々子供たちの参加が増え、今回は施肥作業を中心にイロハモミジ50本の植樹も行いました。また、今回初の試みで、それぞれ植樹した樹木の隣にネームプレートを立て、次回訪れた際、自分の樹木の成長を確認できるようにしました。

この「ゆうきの森」は、CO₂を吸収するという点から、環境保全を促進することが期待されています。今回の植樹により「ゆうきの森」は、今後10年間で約244トンのCO₂を吸収する見込みとなっています。



第4回 植樹祭（2011年4月2日）

※過去3回の植樹祭を行い、広葉樹を中心に約8,000本を植樹しました。

被災地復興への支援

◆ 災害復興義援金

2011年3月に発生しました東日本大地震により、関東・東北地方の広範囲にわたり、甚大な被害が発生しました。

旭有機材グループとして、被災された多くの方がたと被災地のいち早い復興に対し、義援金を募り、日本赤十字社等を通じて見舞金を贈りました。

また、延岡本社・管材製造所がある宮崎県で発生しました「口蹄疫」「鳥インフルエンザ」などの災害に対しても、防疫などの対応を迅速に行っています。

グループ会社

グループ会社の取組み

◆ グループ会社と環境負荷

今回ご紹介するグループ会社4社の主な環境側面と2010年度の実績です。
環境負荷低減を推進するために計画的な改善活動に取り組んでいます。

	環境側面（原単位※①）	2010年度 実績	評価※③
エーオーシーアSEMBル株式会社 ◎所在地：宮崎県延岡市 ◎事業内容：プラスチック製配管材料の 加工・組立	産業廃棄物の排出量原単位（トン/百万円）	0.041	○
	電気の使用量原単位（kWh/百万円）	2,079	○
	CO ₂ の排出量※②原単位（t-CO ₂ /百万円）	1.17	○
エーオーシーテクノ株式会社 埼玉事業所 ◎所在地：埼玉県さいたま市中央区 ◎事業内容：半導体関連機器の治工具洗浄 装置製造・販売	産業廃棄物の排出量原単位（トン/百万円）	0.0057	△
	電気の使用量原単位（kWh/百万円）	215	△
	CO ₂ の排出量原単位（t-CO ₂ /百万円）	0.07	△
旭有機材樹脂（南通）有限公司 ◎所在地：中国江蘇省南通市 ◎事業内容：鋳物用フェノール樹脂の 製造・販売	産業廃棄物の排出量原単位（トン/百万円）	0.016	○
	電気の使用量原単位（kWh/百万円）	1,585	○
	CO ₂ の排出量原単位（t-CO ₂ /百万円）	1.58	○
旭有機材閥門設備（上海）有限公司 ◎所在地：中国上海市 ◎事業内容：プラスチック製配管材料の 製造・販売	産業廃棄物の排出量原単位（トン/百万円）	0	○
	電気の使用量原単位（kWh/百万円）	1,231	○
	CO ₂ の排出量原単位（t-CO ₂ /百万円）	1.22	○

※① 原単位：物量データを売上高で除したもの

※② CO₂の排出量：電気エネルギー起源によるCO₂排出量

※③ 評価：2009年度実績との比較（○：改善できた △：さらに取組みが必要）

旭有機材樹脂（南通）有限公司



旭有機材閥門設備（上海）有限公司



◆ 編集方針

旭有機材工業株式会社が2010年度に行った諸活動のうち、企業として環境・安全にかかわる取組みについて報告します。

◆ 全体的な構成

この報告書は、環境・安全の5つの要素である「環境保全」「労働安全衛生」「健康保持増進」「保安防災」「製品安全」に、「地域（社会）貢献」を加えて構成しています。

◆ 対象組織範囲

旭有機材工業株式会社およびグループ会社

◆ 対象期間範囲

報告対象期間：2010年度
2010年4月から2011年3月（一部4月を含む）

◆ 参考にしたガイドライン

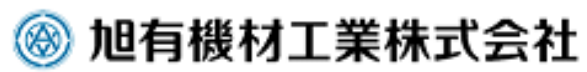
環境省「環境報告ガイドライン2007年版」
環境省「環境会計ガイドライン2005年版」

◆ 発行日および次回の発行予定

発行日：2011年8月1日
次回予定日：2012年8月

◆ 問い合わせ先

旭有機材工業株式会社
〒882-8688
宮崎県延岡市中の瀬町2丁目5955番地
TEL：0982-35-0891
FAX：0982-35-0943
問合せ窓口：
環境安全・品質保証部 主査 竹内厚至
E-mail:atsushi.takeuchi@asahi-yukizai.co.jp
◎編集責任者：
環境安全・品質保証部 部長 伊東利弘



<http://www.asahi-yukizai.co.jp>